

全
12
卷

新たに発見された東京府立松澤病院内で発行された『救治会々報』や厚生省予防局優生課内で発行された雑誌『和光』、植民地下台湾で発行された『心理と医学』や、川崎市公文書館に所蔵されていた「救護法」下での病院収容の実例文書など80余点を収録。こうした戦前の新資料群によって、戦後の精神衛生法下における同意入院や生活保護法の適用への影響が具体的に示されていく！

第一卷 第一號



內蒙古醫學藥劑學系藥學專業大國齊北燕

行發會學醫法療神精本日

顛狂院諸病院規則

山崎藏書

救國會報

第十五號

は明治三十五年十月東京帝國大學醫科大學
教授大橋氏の發起に於て始めて成り立ち世
情なる精神痼疾の貧困なるものを救は
るを以て其本願とするものにして其後大
に活動し給ふ方々も少なからず漸次大業と
事務も次第に舉がりに至りて今茲に合衆飲
藥を發賣する運びに立ち至りたり。世上の
人を憐れと思ひたまはん方々類くは本會
を助くるが爲めに捐ひ賜ひ生け來られよ

“入校要慎”

退院費等

70
~~67~~
~~69~~
後
米
病牀日誌

東京帝國大學醫科大學
精神病科病室

大正七年二月五日 入院
大正七年二月廿六日 退院

六花出版



今回の刊行にあたって

青柿舎 岡田靖雄

歴史資料をあつめ、編集するとは、ジグソー・パズルににている。ちらばっているピースには、ほかのものもまじっている。それらからいくつかのピースをえらび、ならべてみる。そこには、絵のある部分がみえてくるかもしれない。

この編集をおえて、戦後編の編集にかかっている。中心におきたいのは、「金沢学会」(一九六九年日本精神神経学会総会)前後、各地の大学病院精神科・精神病院におこった闘争の全体像だが、問い合わせに對し、「周囲にきいても当時の資料はのこっていない」「警察の弾圧をおそれ、資料はすぐに廃棄していった」という返事がおおい。当時をいきた者には、ぼんやりと全体像はのこっている。だが、あとの人たちは、いま固定された資料によって判断するしかなくなる。できるだけくみあわせても、パズルの絵には空白がひろくのこる。

今回いくつかの新資料を追加できた。前述のことからすれば、戦前像の空白部分はいくらかせばめられてはいる。しかし、全体像がみえるにはほどとおい。後藤基行さんによる川崎市資料発掘によつて、精神病患者監護法の運用の実態がさらにあきらかになった。同時に、医師の診断書の必要性の問題も浮上し、各地における同様資料の発掘がさらにのぞまれるところである。精神病院法による入院対象者の第二項は「罪ヲ犯シタル者ニシテ司法官庁特ニ危険ノ虞アリト認ムルモノ」で、これはわが国における広義保安処分の最初の規定である。この項目の該当者がどのくらいいたかの数字をまだみたことがない。

パズルのピース集めは、戦前についてもまだまだ継続されなくてはならない。同時に、空白部分の絵をどうおぎなうか、他分野の知もかりて論じなくてはならない。

推薦のことば

精神障がい領域に社会福祉学からの 歴史的アプローチを可能とする資料集成

大友昌子

精神障がい領域は、長く医療を中心とした取り組みが行われてきたが、今日では、医療以外の場面、すなわち地域や家庭、デイサービス、会社や学校の相談支援など、当事者を中心として多職種が協働する実践場面が展開する領域である。一方で、精神障がいに対する誤解と差別が浸透するこの社会において、精神的に病む人々は増加傾向にあり、無理解と生きづらさに苦しむ人々が増え続けている。

精神障がいをめぐる医療のあり方、とりわけ社会的動向の特質は、長い時間軸のなかでしか明らかにし得ない事象を含んでいる。近代という国民国家の成立、衛生医療と社会防衛の展開、専門家集団の創出、人権と当事者主体の価値観の生成、こうした精神障がいとこれを病む人々をとりまく本質的な問題性は、歴史的社会的文脈のなかにおいて浮かびあがる事象である。

このたびの六花出版による第四回配本は、日本による植民地体制下の台湾における機関誌『心理と医学』や東京府立松沢病院内で発刊された『救治会々報』、古くは一八八七年の病床日誌、また一九〇五年の日露戦争による発病者の病床日誌、一九二〇年発足の日本精神病医協会の記事、公立及代用精神病院協会発行の『和光』など貴重な史資料が含まれる。

精神障がい領域における社会福祉学からの活発な歴史的研究が進展することを願ってやまない。

(おおともまさこ／中京大学名誉教授・社会事業史学会会長)

精神異常者と社會問題

中央慈善協會

序

社會問題と精神異常者との關係は密接にして且つ廣大なり。而かも精神異常者に關する世上一般の智識は深からずして、未だ其普及を見ざるは我邦現代文明の一大缺陷なりとす。顧ふに精神異常者と稱すべきものは其數甚だ多く、而して其種類亦多岐に亘り、一面最も憐れむべき病者たると共に、他の一面に於ては亦た實に社會を蠹毒するの惡分子たり。須らく其本態を研究し、其性質を闡明し、以て個人の救済を圖り、以て社會の幸福を増進せしめざるべからず。

近時我邦に於ける感化救済の事業は蔚然として勃興し來り、社會問題を研究するの士亦益々多きを加ふるに至れるは、洵に慶賀に堪へざるなり。然りと雖も精神異常者の本態並に性質を究明せずんば、焉んぞ能く社會問題を解決し、又根蒂深

き感化救済の實を擧ぐることを得んや。今次本會が東京醫科大學精神病学教室、内務省衛生局、其他の専門家に依頼して本書を編纂せしの趣旨亦實に茲に存す。本書幸にして新興の氣運に向ひつゝある我邦精神異常者に關する制度施設の改善向上に對して資する所あらば、本懷是れに過ぎざるなり。

大正七年十一月三日

中央慈善協會

精神異常者と社會問題目次

口繪 獨逸アルト・シルビツ病院全景 精神病者私宅監置實景三葉

第一 精神異常者と救済

精神病者の救済並に精神病學的社會問題……………	東京帝國大學教授	吳 秀 三(一)
民族衛生上より觀たる精神病……………	東京帝國大學教授	永 井 潜(三)
精神病的中間者及び色情異常者の救済……………	東京帝國大學助教授	三 宅 鏡 一(五)
精神病者に對する醫學と法律との交渉……………	東京地方裁判所判事	山 崎 佐(六)
本邦精神病者の統計的觀察……………	法政學士	武 崎 宗 三(七)
社會的危險性精神病者及其處置……………	醫學士	杉 江 董(八)
監獄に於ける精神病者如何に保護すべきか……………	東京監獄長	井 村 忠 介(一〇)
白癡及び低能者及其救済……………	千葉醫學專門學校講師	後 藤 城 四 郎(一一)

これからの精神科医療を 考えるための必読文献

松下正明

現在の日本の精神科医療は曲がり角にきているといわれて久しい。これからの精神科医療のあるべき姿が今なお暗中模索されているとき、過去の、とくに明治初期以来の近代精神科医療の歩みを改めて振り返ってみる必要がある。

本復刻版には、精神科医療に関わる種々の規則、通達、統計、あるいは議会における議事録にはじまって、府立松沢病院史などよく知られた文書から、一般にはほとんど目にするのできない精神鑑定書、個々の病院の案内、パンフレットに至るまで、よくぞここまで集めたものだと感じするほどの多くの資料が集められている。

本復刻版は、日本の近代精神科医療を省みながら、これからの精神科医療を考えるときの必読文献集といってもよい。そして、これらの資料をいかに読み込んでいくのが読者に問われることになるだろう。

私にとっても初見の資料が数多くあり、明確な問題意識をもって、じっくりと勉強していきたいと思っている。

(まつした・まさあき) 精神医学史学会理事長

差別の実態を浮かび上がらせる 資料群

酒井シツ

明治維新後から戦前までの八〇年余、精神障害者が近代化の名の下に受けてきた待遇に関する資料の総集編である。半端なものでない。さすが岡田靖雄氏の編集になるものと感嘆した。岡田氏は『私説 松沢病院史』を著し、東京大学精神医学の名誉教授で日本の精神医学の基礎を築いた呉秀三について「呉秀三、その生涯と業績」「呉秀三著作集」などを出版した、精神医療史研究者として右に出る者がいない方である。長年、精神科医療史料室を主宰して、こつこつと集められた資料がここに「資料集成」として公にされることになったのだろう。うれしいかぎりである。

呉秀三は、私宅監置に関する論文のなかで、日本の精神障害者が病の苦しみの上に「この国に生まれた不幸」を負わされたことを指摘したが、私宅監置だけでなく、精神障害者を社会から隔絶するためにできた精神病院、精神障害者に対する法律などによっても差別された。精神障害者がどのような待遇をうけたのか、ここに収録された資料のタイトルをみるだけでも想像がつく。人権問題が論じられて長い時間が経つが、精神障害者がその対象になったのは戦後であった。それだけにこの資料集成が語る意味は重い。

(さかい・しづ) 順天堂大学名誉教授

関連年表

(本資料集成収録のものを中心に)

年	月	事項
一八七三	1	樟葉市予備新設下等禁止(敷部省第二号)
一八七四	8	医制発布
一八七五	7	京都府立病院に精神科室 京都府立病院に最初の公立精神科病院・京都府立病院開設、これにともない近代以前からの精神科施設施設であった京都府立の茶屋に對し、精神科者を宿泊させ長期看護することを命令により禁止 養育院(東京)に狂人室(癡狂室)完成 東京警視庁、麻痺人及び不良子弟の私宅留置について布達、甲第三八号
一八七八	5	東京小松川に養育院開設
一八七九	12	加藤嘉三、東京本郷区田町に癡癡病院を開業
一八八〇	11	東京府立病院の創案(のちの東京府立病院、東京府(都)立松沢病院) さき、愛知県公立医学学校で断癡癡学講義をはじめ東京北豊島郡に私立癡癡院設立(のちの豊島病院) 群馬県南高市内の僧侶有志で救済事業を開始(のちの群馬救済会)
一八八二	3	京都に本風癡癡院設立 京都府立病院、水鏡堂境内に私立京都癡癡院として創案(のちの川越病院)
一八八四	10	京都に岩倉癡癡院(のちの岩倉病院)設立
一八八六	8	神戶、帝國大学医科大学で精神病学講義をはじめ東京府立病院に入院中の田中村藩(現在の福島県北郡)藩主相馬威風を、田中藩主相馬威風が連れ出す
一八八七	1	東京府立病院の医師は医科大学が負担
一八八八	5	京都に船岡癡癡院設立
一八九一	9	前年相馬威風が死したのには家令らによる毒殺であると相馬が否認、しかし免訴
一八九三	7	東京警視庁、精神科患者取心臓を発売(訓令第二五号)
一八九四	4	日本禁酒同盟設立
一八九八	12	東京癡癡院開設(のちの田端癡癡院)
一八九九	9	精神科者監護法公布
一九〇〇	3	養育院、留置から帰還し東京帝國大学医科大学教授、東京府立病院院長(一九〇四年院長)となる
一九〇一	10	日本神経学会創立
一九〇二	4	精神科者慈善救済会設立
一九〇三	10	同会、機関誌「心症者の救済」発刊
一九〇九	9	横浜神奈川病院設立(のちの横浜病院、横浜病院)
一九一六	5	東京帝國大学医科大学に精神科者慈善救済会寄付による精神科室落成
一九一八	6	養育院、松田五郎(精神科者私宅監置ノ実況及び其統計的觀察)発表、このなかで日本の精神科者には病氣であるほかに「此邦ニ生レタルノ不幸」があること述べる
一九一九	3	精神病院法公布 このころ森田正明「森田療法」と開始

目次

資料名 編著者名(発行所) 発行年月

第1巻

I 初期資料(解説 岡田清雄)

狂気人御説諭御願 □□松三郎 一八七六・一〇
相馬家紛擾之顛末 錦織剛清 一八八七・二

II 各地の「瘋癲人」取締規則等

(解説 岡田清雄・野田武志)

瘋癲人鎖鋼願 □□鉄五郎 一八八四・一

〔瘋癲人看護の爲に私宅に鎖鋼〕〔甲第八拾貳号〕 兵庫県
令 一八八四・九

瘋癲(警務要書) 内務省警保局 一八八五・六

瘋癲人取締規則(滋賀県公報) 一八八七

瘋癲人取締規則(県令第百二十四号) 〔群馬県〕 一八八
七・二

III 巢鴨病院/松沢病院(解説 岡田清雄)

東京府立松沢病院ノ歴史及患者統計・東京帝国大

学精神病学教室ノ歴史及患者統計(呉教授在職二十

五年記念文集別刷) 東京府立松沢病院医局同人・東京帝国大学

精神病学教室同人 一九二八・一二

東京府巢鴨病院規則 序 吳秀三 一九〇六・三

看護人心得之大要 第四拾七号 (東京府立松沢病院) 一九
二五・七

蝶友会々則・同施行細則 一九三九・四

入院後ノ心得 東京府立松沢病院 (一九三五)

東京府立松沢病院案内 (一九三七)

東京府巢鴨病院 五区二号室患者 一八九八・一二

松の緑 第一選集 編・序 野村章恒/序 杉田直樹/表紙 飯沢
天羊 一九三一・五

精神病学教室及附属病院建設地トシテ伝染病研究

所構内ノ地所ヲ検分候処 筆記 吳秀三 一九二七・二

第2巻

III 巢鴨病院/松沢病院(三表紙)(解説 岡田清雄)

明治二十九年巢鴨病院医事年報 一八九七・七

自大正九年至大正十三年東京府立松沢病院年報
一九二八・三

昭和三年東京府立松沢病院年報 一九二九・一〇

昭和十四年東京府立松沢病院年報 一九四二・二

第3巻

IV 公立精神病院(解説 岡田清雄)

大正十五昭和元年大阪府立中宮病院概況報告書
一九二七・一〇

神奈川県立芹香院概要 一九四〇・四

県立精神病院光風寮建築概要 兵庫県 一九三七・五

V 私立精神病院(解説 岡田清雄)

本瓜原狂病院補助金集帳 第八百廿三号(抄) 一八八二

入院心得書 大正三年改 船岡精神病院 一九一四

顛狂院諸病院規則 山崎(佐蔵)

公立及代用精神病院々々主院長会議々々事録 一九三
三・九

和光 第貳号 斎藤五男ほか/表紙 高野六郎/公立及代用精神病
院協会 一九三四・四

鎌倉脳病院十週年記念誌 一九四一・六

岩倉病院史草案 土屋栄吉・末松たま・柴山泰三郎・三原登美
子・平賀ハツ・青山はる代 (一九四八・七)

第4巻

VI 精神病患者監護法および精神病院法

(解説 岡田清雄・橋本明)

群馬県管下精神病患者私宅監置状況視察報告 斎藤玉
男 一九二〇・一〇

精神病患者私宅監置ノ実況及び其統計的觀察(二)

(四) (東京医学会雑誌) 第拾貳卷第十号(第十三号) 吳秀
三・榎田五郎 一九一八・六

精神病患者保護取締ニ関スル意見 吳秀三 一九一八・六

監置精神病患者発病原因調査報告 昭和三年三月 埼玉県
保健調査会 一九二八・三

精神病院若クハ精神病患者取扱ニ関スル法令改正ノ
意見 (関西私立精神病院協議会) (一九三二・九)

精神病院法並精神病患者監護法及関係例規 昭和八年八
月 公立及代用精神病院々々主院長会 一九三三・八

最近三ヶ年度ニ於ケル精神病患者監護費調 (厚生省
予防局) 一九三八

私宅監置室の構造見取図(抄) 広島医科大学精神神経科
一九五〇

建議案 精神病患者ノ待遇統一ヲ望ムノ意見書 大阪
府会議長 一九三六・一二

VII 諸外国の精神病患者対策(解説 岡田清雄)

一八五二・一八九八年間ニ於ケル病院収容精神病
者一人ニ対スル人口割表 一八五二・一八九八

各国ニ於ケル精神病患者保護法並其ノ施設概要 衛
生局保健衛生調査局 一九一八・九

第5巻

VIII 精神病患者慈善救済会および日本精神衛生協会

(解説 岡田清雄)

救済会の趣旨及規則 一九三一・五

庶務日誌 大正四年六月起 精神病患者慈善救済会 一九一五・六
一九一六・五

心疾者の救護 第二十九号 一九一八・八

救済会々報 第五十二号(創立滿三十年記念号) 編 村松常雄
ノ加藤晋佐次郎・長山泰政・野村章恒・青修 一九三二・七

精神病に關する常識及精神病院入院の手引 附全国
精神病院及收容施設一覽(救済会バムフレット第一輯) 村松常雄
一九三二・一〇

救国会埼玉支部創立趣意書 一九三五・八

精神衛生運動(精神衛生バムフレット第一輯) 述 植松七九郎/日本精神衛生協会 一九三二・五

教育と精神衛生(その一) 児童指導事業に就て(精神衛生バムフレット第二輯) 述 斎藤玉男/日本精神衛生協会 一九三二・一〇

精神衛生運動とは? 一九三三・九

神奈川県精神衛生協会設立趣意書 一九三三・九

IX 精神科看護(解説 岡田靖雄・小峯和茂)

癲狂院に於る精神科看護学 述 俣保三郎 一九〇二・八

根岸病院看護法 編 森田正馬 一九〇八・九

看護夫名簿綴込(抄) 大正十年度ヨリ同十四年度ニ至ル男看護科 一九二一

根岸病院保養院争議団解決条項 一九三三・四

東京府代用精神病院従業員給与待遇調査(覽表)(職員ヲ除ク)昭和八年五月現在(秘) 一九三三・五

根岸病院争議闘争方針書 全国労働組合同盟関東化学一般労働組合争議部 一九三三・八

根岸病院争議応援に起て! 全国労働組合同盟関東化学一般労働組合 一九三三・八

隠忍百二十一日成嚴令の解除と共に精神病院保養院の暴状を訴ふ!! 中央合同労働組合本部・保養院争議団本部 一九三六・七

X 酒害(解説 岡田靖雄)

酒は何故に飲んで悪いのか 松浦有志太郎

酒の害全 津田仙/題字 勝安芳/東京婦人矯風会 一八九二・一〇

第6巻

XI 精神病学講義録/教科書(解説 岡田靖雄・正徳昭二)

断訟医学 乾・坤 講述 アルブレヒト・フォン・ローレツ

神教授精神病学 高嶺三吉 一八八七・七

呉教授精神病学 筆記 浅田 一九〇九

第7巻

XII 統計(解説 岡田靖雄)

〔衛生局年報〕

第8巻

XII 統計(解説 岡田靖雄)

精神病者調査票記入参考 内閣統計局 一九二〇・一

精神病者地方別表 大正六年六月三十日現在 内務省衛生局 一九一八・五

精神病ニ関スル統計 自大正元年至大正五年 内務省衛生局 一九二二・九

精神病者収容施設調 大正十五年六月末日現在 内務省衛生局 一九二七・五

XIII 議会議事録(解説 岡田靖雄)

〔精神病者監護法・議事録〕 一八九九・一

〔精神病院法・議事録〕 一九一九・二

第9巻

XIV 司法精神医学その他(解説 岡田靖雄)

犯罪と精神異状(司法警察官吏訓練資料)(秘) 講義 中村謙/高等法院検察局 一九三九・一〇

精神病保護施設に就て(資料第貳拾貳号) 財団法人三井報恩会 一九三七・四

昭和拾五年度麻薬中毒者救護会年報 編 中谷護吾 一九四一・九

XV 植民地の精神病者対策(解説 岡田靖雄)

大連に於ける精神病患者統計 土井正徳 一九三六・八

昭和九、十年度年報 台湾総督府養神院 一九三七・五

第10巻

XVI 『救国会々報』

『心疾者の救護』 第二十七号第二八号別刷/第三号、第四号 九号 精神病者救国会/救国会 一九一七・六、一九二八・九

『救国会々報』 第五〇号、第六〇号 救国会/精神病者救国会 一九二九・一、一九四一・一〇

第11巻

XVII 『和光』

『和光』 第二・三号、第六号、第七卷第一号 公立及代用精神病院協会/日本精神病院協会 一九三四・一、一九四〇・四

XVIII 公立及代用精神病院協会総会議事録

公立及代用精神病院々々主院長会議議事録 昭和七年十二月五日開催 一九三二・一二

XIX 日本精神病医協会記事

日本精神病医協会記事 第一号 一九二〇・一、一九三二・四

第12巻

XX 『心理と医学』

『心理と医学』 第一卷第一号、第一卷第三号 日本精神療法医学会(台湾) 一九四四・六、一九四五・二

XXI 精神病検診録/病床日誌ほか

精神病検診録 吳秀三 一九〇八・九
病床日誌 山眞助 一八七七・一

精神病者収容施設調 昭和四年七月末日現在 内務省衛生局 一九三一・三

XXII 京都府・川崎市・神奈川県公文書類

精神障害者問題 資料集成

戦前編 全12巻

編集復刻版

第1回配本	2010年12月 本体75,000円＋税 ISBN978-4-905421-17-7			
	第1巻	I 初期資料	解説	岡田靖雄
		II 各地の「瘋癲人」取締規則等	解説	岡田靖雄・野田武志
		III 巢鴨病院 / 松沢病院	解説	岡田靖雄
	第2巻	III 巢鴨病院 / 松沢病院（年報類）	解説	岡田靖雄
	第3巻	IV 公立精神病院	解説	岡田靖雄
V 私立精神病院		解説	岡田靖雄	
第2回配本	2011年6月 本体75,000円＋税 ISBN978-4-905421-00-9			
	第4巻	VI 精神病患者監護法および精神病院法	解説	岡田靖雄・橋本 明
		VII 諸外国の精神病患者対策	解説	岡田靖雄
	第5巻	VIII 精神病患者慈善救済会および日本精神衛生協会	解説	岡田靖雄
		IX 精神科看護	解説	岡田靖雄・小峯和茂
		X 酒害	解説	岡田靖雄
	第6巻	XI 精神病学講義録 / 教科書	解説	岡田靖雄・正橋剛二
第3回配本	2011年12月 本体75,000円＋税 ISBN978-4-905421-04-7			
	第7巻	XII 統計（『衛生局年報』）	解説	岡田靖雄
	第8巻	XII 統計（続）	解説	岡田靖雄
		XIII 議会議事録	解説	岡田靖雄
	第9巻	XIV 司法精神医学その他	解説	岡田靖雄
		XV 植民地の精神病患者対策	解説	岡田靖雄
第4回配本	2016年6月 本体75,000円＋税 ISBN978-4-905421-96-2			
	第10巻	XVI 『救済会々報』	解説	岡田靖雄
	第11巻	XVII 『和光』	解説	小峯和茂
		XVIII 公立及代用精神病院協会総会議事録	解説	小峯和茂
		XIX 日本精神病医協会記事	解説	岡田靖雄・小峯和茂
	第12巻	XX 『心理と医学』	解説	岡田靖雄
		XXI 精神病検診録／病床日誌ほか	解説	岡田靖雄
		XXII 京都府・川崎市・神奈川県公文書類	解説	岡田靖雄・後藤基行

定価▼本体価格300,000円＋税

体裁▼A4判（4面付け方式）・上製本・
総4、250頁
編者▼岡田靖雄・小峯和茂・橋本 明
解説▼岡田靖雄・小峯和茂・橋本 明・
野田武志・正橋剛二・後藤基行
協力▼野田武志・板原和子・小林ひとみ・
後藤基行

推薦▼松下正明（精神医学史学会理事長）
酒井シヅ（順天堂大学名誉教授）
藤野 豊（近現代史研究者）
中村 治（大阪府立大学）
大友昌子（中京大学名誉教授・社会事業史学会会長）
坪井秀人（国際日本文化研究センター）
鈴木晃仁（慶應義塾大学）

※戦後編（全12巻）も刊行中

* 表示価格はすべて税別。